

平成24年1月元旦発行

会員各位

協会だよりー229(1月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

2012年年頭の挨拶

謹んで新春の祝詞を申し上げます。

会員各社の皆様ならびに関係各位におかれましては、ご家族ともども良い新年をお迎えになられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は大変悲惨なと形容せざるを得ない年でありました。3.11の東日本大地震および大津波により2万人規模の死者・行方不明がでました。9月には紀伊半島を中心とした大雨による洪水によりこれまた多くの尊い命が奪われたり、家屋など多くの構造物が被害に遭いました。さらに、10月に入りタイ国における洪水被害の結果、当該工場団地に立地の自動車およびIT工場ならびに関連部品製造工場が水没し、操業停止を余儀なくされ、今なお復旧の途上にあります。東日本大震災や大津波時以上の甚大な影響度にて、この操業停止によるサプライチェーンの寸断が我が国のみならず世界の自動車やIT機器に止まらず、広範囲な製造業の低稼働を引き起こしました。こうした相次ぐ自然災害から、特に我が国は復興需要による景気回復どころか、景気後退が顕著となりました。

また、ギリシアに端を発した金融危機はヨーロッパ全土に及び、もはやグローバル化の時代にあつて、米国や日本、中国ならびにアジア全体にも拡がりを見せ、何時何処で新たな金融に絡んだ信用問題、株式の暴落、急激な為替変動が発生してもおかしくないという事態に至っています。

世界の政治もアルジェリアで始まったフェイスブックを媒体とした政体転覆実現を含む暴動騒ぎはサウジやリビアその他北アフリカ一体に急激に波及し、経済格差の拡大が指摘されて久しい米国のみならず、英国などその他西欧先進国にも今なお拡がりを見せております。中国も政治家や官僚などの不正への抗議の声が次第に大きくなり今や日常茶飯事の如く各地で暴動が発生しており、折からの不動産バブル崩壊兆候と重なって、政治社会の不安定化を現出しつつあります。12月20日には北朝鮮を長く独裁統治してきた金正日総書記が急死との報道を受け、すわ朝鮮半島に政治社会のみ



触媒資源化協会
会長 大井 滋

ならず軍事的な緊張感が漲り、三男の正恩氏が後継したとは言えこれまた今後とも予断を許さない状況が続いております。

斯様に昨年は大災害に暴動、金融危機と悲惨なニュースに事欠かず、かつある地域で起こったことが瞬時に世界を駆け巡って影響を及ぼすというグローバル時代のなんたるかをまさに切実に感じさせもしました。一方、我が国の政治も迷走を極め、唐突な TPP 参画、消費税増税や八つ場ダム建設再開など民主党の政権奪回は何だったのかを国民に問いかけております。大阪における橋下市長誕生はこうした世相を反映した、混迷時代からの脱却を願う民意の一部を現したのものかもしれません。

我が国産業界は、サプライチェーンの再構築や1米ドル70円台という超円高を睨み、一層の海外製造拠点移動を加速させており、我が触媒再生業界にも構造的に多大な影響を及ぼそうとしております。世界経済の低迷から銅をはじめとする非鉄やレアメタル、レアアースなど金属価格も30~40%の幅で軒並み下落し、金など有事の商品も低調に推移しております。

さて、今年は辰（龍）年です。一般的にはこれまでの努力が報われ天にも昇る好機到来の年と言われておりますが、相場と同じで、裏腹に急激な下降というリスクも伴っており、起伏の激しい年となる懸念もあります。昨年よりは明るくなるはず、むしろそうなって欲しいと誰もが願っているのですが、慎重な取り組みも求められるかもしれません。これは比較論ですが、我が国には「物作り」という点では、まだまだ世界に冠たる実績も評価もあります。一部会員企業におかれては既に顧客の海外移転に伴い、海外での再生事業に既に取り組んでおられるところも御座いますが、国内で粘り強く製造に励む企業にとっては、我が国再生業界にて再生された金属素材の安定供給は大歓迎のはずであります。

念頭にあたり「大いに飛躍の年にしましょう」と声高らかに音頭を取りたいところですが、今年は資源の乏しい我が国に立地して、真摯に地道に製造活動に勤しまれる産業や企業に対し、「国内の資源循環」という大儀を果たすべく僅かであっても着実な一歩前進を会員企業の皆様とともに進めてまいりたいと存じます。明るいニュースとして、昨年初に38社の会員数が本年1月1日付けで42社となります。本協会の取り組みが着実に拡がりを見せている証拠でもあります。弊協会は会員相互が一致団結して我が国の資源循環に向け強力に努力してまいりますので、ご当局ならびに関係諸団体の皆様方には、一層のご支援ならびにご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、会員各社の益々のご発展と、関係各位ならびにご家族のご多幸、ご健勝を祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

※ J X 日鉱日石金属(株) 執行役員 環境リサイクル事業本部長

<トピックス>

● 臨時月例会(見学会)の開催

日 時：平成24年1月16日(月)15時00分から16時30分
集合時間及び場所：14；30までに モノレール新整備場駅改札口
見学場所：ANA 機体メンテナンスセンター(羽田)
参加者： 37名
備 考：見学終了後浜松町にて小宴会(プチ新年会)。

● 第212回月例会(講演会・新年会)

日 時：平成24年2月7日(火)15；00～19；00
場 所：如水会館・ペガサス及び桜の間にて



Photographer: Kiyoshi Naito

- 一. 協会よりのお知らせ
- 【実施済事項】
- 【予定事項】
- ニ. 経産省よりの連絡
- 三. 新入会員の紹介(富陽金属㈱殿)
- 四. 事務局より(二年度の予定)
- 五. 【雑学】奥の細道・バスツアー
(第三―二回) & (第四―一回)

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① [協会だよりー228\(12月号\)](#) をメール&郵便で送信(12/1)
- ② 2011年度(暦年)の資源化実績調査のお願い(12/12)
- ③ 第212回月例会(講演会・新年会)のお知らせ(12/28)

【予定事項】

- ① 臨時月例会(見学会)
日 時：1月16日(月)15時00分～17時00分
見学先：ANA 機体メンテナンスセンター(羽田)
懇親会：浜松町の中華店にて
- ② 第六回運営委員会
日 時：平成24年1月26日(木)15：30～17：00

場 所 : 堺化学工業株式会社会議室
議 題 : 第212回月例会の運営準備と打合せ
平成24年度の月例会予備検討その他

2. 経産省よりの連絡

- ①【団体連絡体制の御確認ほか】今冬の電力需給対策について(続報) (12/2)
- ②【ご連絡】レアアース補助金の公募開始(経済産業省化学課) (12/7)
- ③省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関する法律)改正の方向性について(12/8)
- ④.緊急地震速報訓練(12/1)の実施後アンケートサイト開設のお知らせとご協力のお願い
(12/9)
- ⑤イランに対する国連安保理決議の履行に付随する措置の対象の追加等について(12/13)
- ⑥イノベーション拠点立地推進事業の公募開始について(12/19)
- ⑦化学物質排出管理促進法におけるGHS対応の推進(省令・告示改正)について(12/22)

3. 新入会員の紹介(富陽金属㈱殿)

当協会会員日揮触媒化成㈱のご紹介により富陽金属㈱殿が正会員として、12/19入会が承認されましたのでご紹介いたします。1月1日よりの入会となります(敬称略)。

【富陽金属株式会社】

代表者: 代表取締役 増田 康次

資本金: 24,000千円

従業員: 20人

本社所在地: 〒530-0047 大阪市北区西天満6丁目3番19号

TEL 06-6311-2800 FAX 06-6311-094

協会担当者: 取締役 増田 耕一

担当者所在: 本社住所に同じ

主なる事業内容:

- ニッケル・フェロニッケル・コバルト・モリブデン・タングステン・カドミウム・チタン・金・銀・その他非鉄原材料の加工・売買
- ステンレス鋼・モネルメタル・その他特殊鋼の加工・売買
- 一般化学機器及び炉等の設計・製作

資源化事業:

- Ni 廃触媒のレアメタル再資源化事業
- 二次電池(使用済み/工程廃材)のレアメタル再資源化事業(子会社 日本リサイクルセンター㈱との協業事業)

【URL】 <http://www.fuyometal.co.jp/>

4. 事務局より（1月度の予定）

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	2	3	4	5	6	7
	冬期休暇	←	←	←	○	×
2週	9	10	11	12	13	14
	成人の日	○	×	×	○	×
3週	16	17	18	19	20	21
	ANA 整備見学	×	○	×	○	×
4週	23	24	25	26	27	28
	×	○	×	運営委員会	○	×
5週	30	31	2/1	2/2	2/3	2/4
	×	○	○	×	○	×

事務局延べ出勤予定：10日（○；終日、△；半日、×は休日）。

5. 【雑学】奥の細道・バスツアー（第三二回）&（第四一回）

先月号に引続き、日光での芭蕉さんの足取りをかいつまんで紹介いたします。

《裏見の滝》日光市安良沢

日光市安良沢に滝の裏から見物できたといわれる裏見の滝があります。芭蕉はここにも訪れています。駐車場より滝まで15分程度の山道ですが、しっかりと作られておりスニーカーが必要と思われませんが楽に登れます。しかし現在は裏から滝を見ることは出来ません。



裏見の滝までの遊歩道



裏見の滝

「暫時は滝に籠るや夏の初め」昔は滝の側に籠堂があり修行のため籠ったといわれています。芭蕉さんも修行者の気持ちで読んだ句と考えられます。この句碑は日光市立安良沢小学校の校庭に設置されています。

《含満ヶ淵》日光市安川町

滝から流れる水は大谷川となり急流が続いています。小学校側から川岸に下り遊歩橋を渡り、川沿いに下流へ向かうと含満ヶ淵が現れます。含満ヶ淵は男体山の噴火で流出した溶岩流を大谷川が浸食した奇景といわれています。岸沿いには100体ほどの石仏がずらりと並んで我々を迎えております。含満ヶ淵では対岸の岩に刻まれている大梵字は弘法大師が筆を投げて字を刻んだという伝説があり

ます。



奥の細道の一般の参考書には日光で呼んだ句とされている「あらたうと 青葉若葉の日の光」は東照宮の宝物館の前庭の句碑（先月号で紹介）にあります。高野家の個人の庭の句碑には「あらたうと 木の下闇も 日の光」となっています。高野家はかつてこの地では、鉢石宿本陣（庄屋）であったといわれています。日光では仏の五左衛門という所に泊まったと書いていますが、その場所は不明のようです。日光見物の後、芭蕉さんは日光より那須黒羽に向かいます。午後4時半、既に夕闇が迫り、我々のバスは日光を後にして東北自動車道を東京へと帰路に着きました。

さて日は変わり四回目のバスツアーは12月2日（金）3日（土）といよいよ一泊二日の行程となりました。ツアーのテーマは

～：芭蕉のさと：黒羽より遊行の芦野の里まで～

《たまにゅう》

東北自動車道を矢板 IC でおおり、461 号線（日光北街道）を日光方面に向かいます。芭蕉さんが日光より黒羽に向かう途中宿泊したといわれる玉生のさとに着きました。曾良の日記では「玉生泊、宿悪故、無理ニ名主ノ家入テ宿カル」とあり、今は医院も無く更地となっていますが、名主の末裔より土地を譲り受けた尾形医院によりこの地で芭蕉が宿泊をした、いわれの句碑が建てられています。

《黒羽》

黒羽町は現在合併により大田原市黒羽となっていますが、芭蕉さんが約二週間と長期滞在した場所として知られ、町全体が芭蕉の里として整備されています。余にも見所が多いのでここでのご紹介は数箇所限定させていただきます。

玉生より黒羽に向かう途中、一泊したとありますが当時の那須野越えの道は獣道に毛の生えた程度で、さらに分かれ道が多かったためか農夫に道を尋ねたところ、馬を貸してくれたので借りて黒羽を目指しました。農夫と一緒にいた女の子の名前が「かさね」というのに感心し、「かさねとは八重撫子の名成べし」 曾良 の句を残しています。

那須の黒羽という所に知人あれば、これより野越にかかりて～と奥の細道にあります。やがて人里に至れば、あたいを鞍つばに結つけて～、馬を返しぬ。ということで、我々もバ



スにて黒羽に到着しました。

《芭蕉の館》大田原市前田 980 番

黒羽は江戸時代黒羽藩大関氏一万八千石の城下町で、芭蕉の門人だった浄法寺桃雪は城代家老を務める家柄、またその弟、翠桃も門人でした。黒羽城址公園の三の丸跡には芭蕉の博物館「芭蕉の館」があり、詳しい奥の細道に関する展示と館長さんの丁寧な説明がありました。館の前には主従の像と かさねとは八重撫子の名成べし〜の句碑が置かれています。芭蕉主従と一緒に記念写真を撮りました。ホテルで同室になった方にシャッターをお願いしました。



《雲巖寺》

黒羽の市街地より東に十数キロのところの木々に囲まれた壮言な雲巖寺があります。深川・臨川寺にて芭蕉の参禅の師であった仏頂和尚が、雲巖寺で修行したといわれる草庵跡を芭蕉は訪れています。

当国雲峯寺のおくに仏頂和尚 山居跡あり〜

「木啄も庵はやぶらず夏木立」

と、とりあえぬ一句を柱に残侍し〜

《玉藻稻荷》

昔、中国から日本に侵入した九尾の狐が「玉藻の前」という美女に化けて宮廷に入り込み、国を滅ぼそうとした伝説「殺生石の由来」にあるとおり、宮廷で正体を見破られ那須野が原に逃げてきました。この玉藻稻荷脇の鏡の池で三浦介らに討ち取られたといわれています。九尾の狐の霊は毒石となり、那須湯本温泉まで飛び毒気を吐いて人や鳥獣に害を為したので殺生石とよばれました。翌日、我々も那須湯本温泉の温泉神社と殺生石に向かいます。



雨の雲巖寺

《高久》

芭蕉さんは那須湯本温泉の温泉神社と殺生石に向かう途中名主の高久覚左衛門家に、雨のためもあり二泊しました。高久という名前は東北本線の駅名、地名として残っています。末裔の高久家の庭には芭蕉二宿の地の石碑が立っています。

追記：ツアーではこの後、那須湯本温泉に向かい温泉神社前の松川屋 那須高原ホテルに一泊しました。翌日もツアーが続くのですが、続きは2月号に紹介致します。



【文責・専務理事】